R0512Amagasakiwalkweb.pdf

〈Photo 記録〉 ”鉄の街 尼崎”の新しい息吹 お城が復元されたポストコロナの時代 2023.11.26.

「小林哲郎 尼崎の工場夜景」が郵便切手に”鉄の街 尼崎”にこんな美しい景色がある

かつての工都尼崎の象徴「住友の三本煙突」がそびえていた南北に延びる五合橋界隈を歩く

2023.11.26. by Mutsu Nakanishi

なぎさ回廊・運河が結ぶ現在の尼崎南部の工場街（中央の写真 関電発電所の跡地に建つパナソニックの工巨大工場）2009.2.4

令和の新しい時代に変貌する”鉄の街尼崎”の新しい姿 五合橋筋界隈 変貌する街と共に新しい工場群が織りなす新しい工場街景色

高度成長時代の工都・鉄の街「尼崎」のシンボル 住友鋼管の３本煙突が消えてもうに２０年余り
現在の工都「尼崎」の南の工場地帯には今こんなに美しい工場風景が広がっている。
また、今 尼崎の工場夜景の美しい景色が知られるようになり、この１１月２２日には美しい尼崎工場夜景がデザインされた日本郵便切手シート「小林哲朗 尼崎の工場夜景」が発売された

尼崎南部の工業地帯の今昔 インターネット他 2023.11.26.

戦後日本の高度成長を支えた”鉄の街・工都 尼崎” 騒音と煤煙が立ち昇る姿は、尼崎の工業地帯の活気の象徴
でも現在の工場街は青空と静かさを取り戻し、ハイテク化された建物が整然と建ち並ぶ美しい姿に

◆戦後日本の高度成長を支えた尼崎南部の工業地帯 戦後復興から高度成長期（1995～1973）

鉄鋼・発電所等々大工場の煙突が建ち並び、噴煙を立ち昇らせる姿が壮観と映っていた

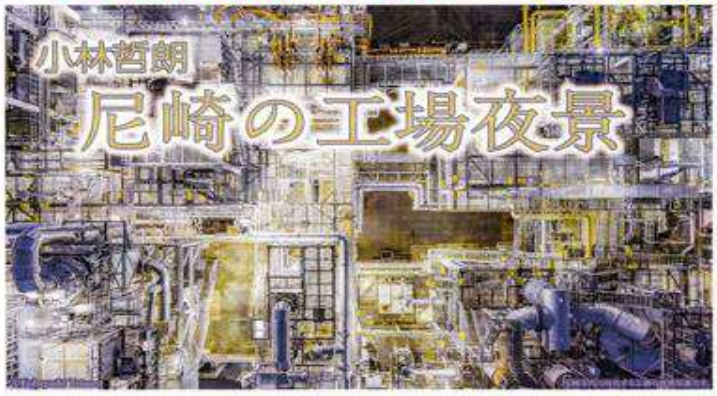
高度成長の時代を支えた”鉄の街の南に聳えた尼崎”の象徴 「住友の三本煙突」1957年5月

「鉄の街」尼崎(1) 昭和３２年当時の住友金属鋼管製造所の三本煙突

住友金属工業60年小史(昭和32年5月20日発行)

左下から右上へ 北の阪神尼崎駅から工場街を貫いて南の港へ 尼崎南東部の工業地帯を貫く幹線道路 五合橋線
朝夕 巨大煙突を見上げながら、工場へ働く人たちの自転車・自動車の群れと街中から見晴らす「住友の3本煙突」
街中からも良く見え、「美」を越えた誰もがよく知る「活気あふれる尼崎」の象徴
庄下川の河口に張り巡らされた運河群 五合橋を渡ると工場の真っ只中 両側に住友鋼管の工場群
左側 東向島西之町町 右側に三本煙突が見える東向島東之町町 南へ進めば運河にかかる可動橋「大運橋」
懐かしいかつての尼崎の姿がありありと

“尼崎にこんな美しい景色がある” 「小林哲朗 尼崎の工場夜景」切手シートが発売された



高度成長の時代を支えた“鉄の街の南に聳えた尼崎”の象徴 「住友の三本煙突」1957年5月

「鉄の街」尼崎(I) 昭和３２年当時の住友金属鋼管製造所 の三本煙突

住友金属工業60年小史(昭和32年5月20日発行)

左下から右上へ 北の阪神尼崎駅から工場街を貫いて南の港へ 尼崎南東部の工業地帯を貫く幹線道路 五合橋緯
朝夕 巨大煙突を見上げながら、工場へ 働く人たちの自転車・自動車の群れと街中から見晴らす「住友の3本煙突」
街中からも良く見え、「美」を越えた誰もがよく知る「活気あふれる尼崎」の象徴
庄下川の河口に張り巡らされた運河群 五合橋を渡ると工場 の真っ只中 両側に住友鋼管の工場群
左側 東向島西之町町 右側に三本煙突が見える 東向島東之町町 南へ進めば運河にかかる可動橋「大運橋」
懐かしいかつての尼崎の姿がありありと

五合橋筋南の可動橋 大運橋

五合橋筋の両側 旧住友鋼管本館前
(現日本製鉄)

阪神尼崎から南の工場地帯並びに港へ延びる五合橋筋運河にかかる五合橋から眺める旧住友鋼管(現日本製鉄関西製造所尼崎)
かつて、建物の傍に巨大な煙突が３本立ち並び、この三本煙突は”工都 ・鉄の街 尼崎”成長の象徴と愛され、朝夕には五合橋
を渡って工場や港へ向かう多くの人並や自動車がひしめき、活気ある工場の鋼管騒音と雑踏の音が成長する尼崎の象徴だった。
今も美手入れの行き届いたしいグリーンベルトの中をひっきりなしに自動車が南へ自動車が下ってゆきますが、静かなもの。
令和の新しい時代の中 変容する街と共に新しい工場群が織りなす新しい工場景色 変貌する”鉄の街尼崎”の新しい姿です。

阪神尼崎から南の工場街・港へ延びる幹線道路　五合橋筋界隈の秋景色　2023.11.26.午後

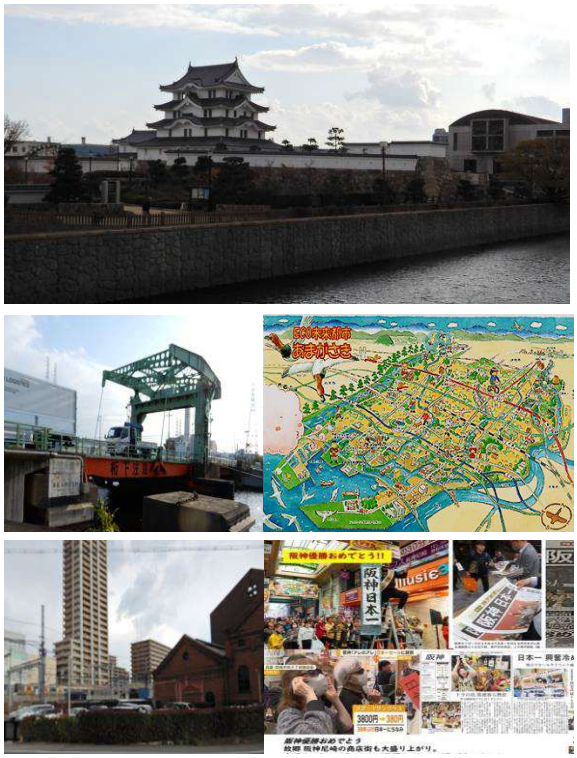
尼崎市立歴史博物館

PICK UP 尼崎現代史　1995年

阪神工業地帯初の高炉の最後

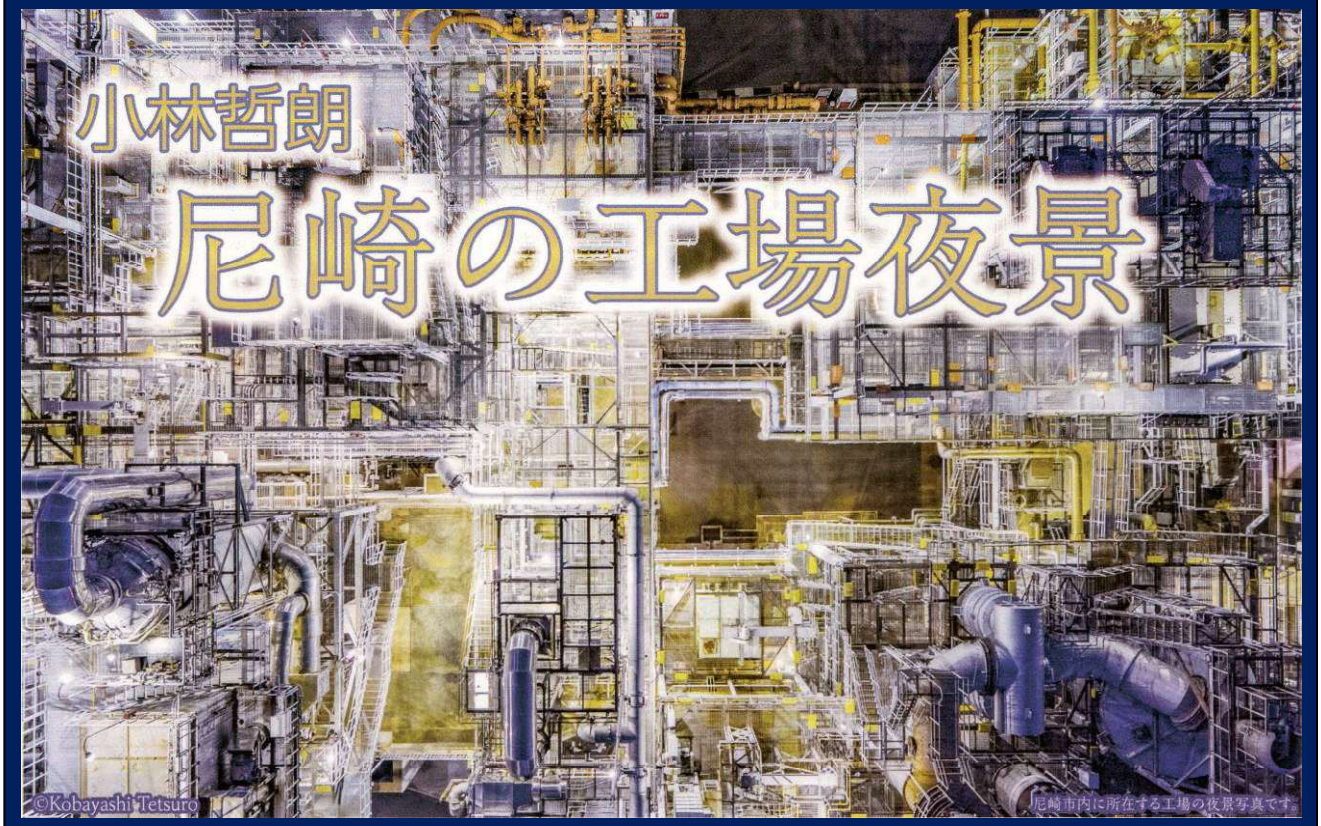
昭和7年（1932）、尼崎製鋼所が設立され、尼崎築港埋立地に大工場を建設、昭和10年代前半には高い収益を上げ、尼崎臨海工業地帯を代表する鉄鋼メーカーへと成長しました。昭和16年（1941）には尼崎製鉄所が新設され、阪神工業地帯で初となる高炉（溶鉱炉）を建設しました。その後、尼崎製鋼と尼崎製鉄は合併・分離を繰り返しながら、昭和40年（1965）に神戸製鋼所尼崎製鉄所となりました。尼崎製鉄所には昭和32年（1957）建設の2号高炉もあり、2基の高炉は尼崎臨海工業地帯のシンボルでしたが、阪神・淡路大震災後の平成7年（1995）、両高炉は取り壊されることとなり、尼崎製鉄所跡地は兵庫県による「尼崎21世紀の森」へと変貌していきました。

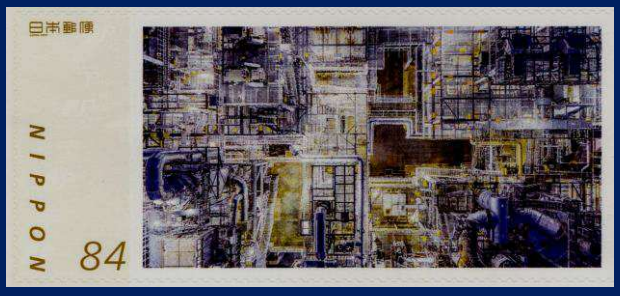
解体直前の高炉



尼崎工場夜景の切手を買い、久しぶりに尼崎南部の工業地帯の街歩きになりました。　Mutsu Nakanishi

日本郵便 切手シート(copy)　小林哲朗「尼崎の工場夜景」2023.11.22.発売

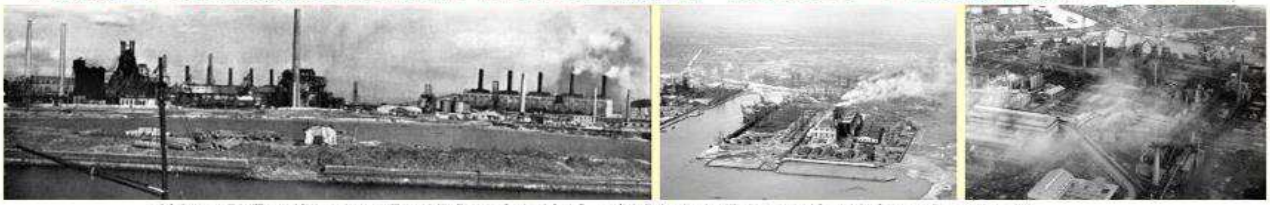




尼崎南部の工業地帯の今昔　インターネット他　2023.11.26.

戦後日本の高度成長を支えた"鉄の街・工都 尼崎" 騒音と煤煙が立ち昇る姿は、尼崎の工業地帯の活気の象徴
でも現在の工場街は青空と静かさを取り戻し、ハイテク化された建物が整然と建ち並ぶ美しい姿に

◆戦後日本の高度成長を支えた尼崎南部の工業地帯　戦後復興から高度成長期(1995～1973)



鉄鋼・発電所等々大工場の煙突が建ち並び、噴煙を立ち昇らせる姿が壮観と映っていた

◆高度成長期を経て変貌が進む尼崎の工場地帯　2000年代

なぎさ回廊・運河が結ぶ現在の尼崎南部工場街へ 写真中央:発電所跡地に立つ巨大ハイテク工場　2009.2.4.

◆今 令和の新しい時代に変貌する"鉄の街 尼崎" の新しい工場街風景　五合橋界隈

令和の新しい時代に変貌する”鉄の街尼崎”の新しい姿 五合橋筋界隈　変貌する街と共に新しい工場群が織りなす新しい工場街景色

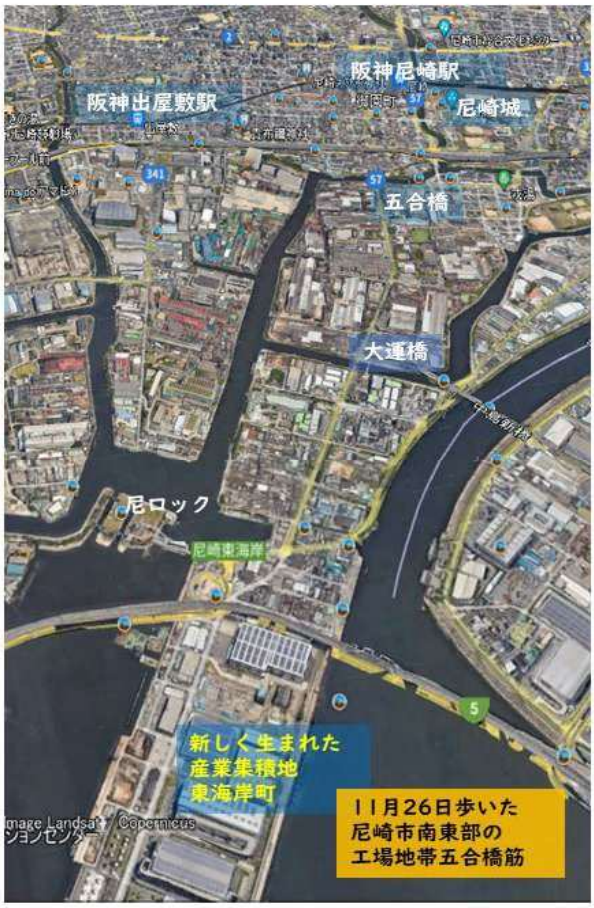
阪神尼崎から南の工場街・港へ延びる幹線道路　五合橋筋界隈の秋景色　2023.11.26.午後

PICK UP 尼崎現代史　1995年

阪神工業地帯初の高炉の最後

昭和7年（1932）、尼崎製鋼所が設立され、尼崎築港埋立地に大工場を建設。昭和10年代前半には高い収益を上げ、尼崎臨海工業地帯を代表する鉄鋼メーカーへと成長しました。昭和16年（1941）には尼崎製鉄所が新設され、阪神工業地帯で初となる高炉（溶鉱炉）を建設しました。その後、尼崎製鋼と尼崎製鉄は合併・分離を繰り返しながら、昭和40年（1965）に神戸製鋼所尼崎製鉄所となりました。尼崎製鉄所には昭和32年（1957）建設の2号高炉もあり、2基の高炉は尼崎臨海工業地帯のシンボルでしたが、阪神・淡路大震災後の平成7年（1995）、両高炉は取り壊されることとなり、尼崎製鉄所跡地は兵庫県による「尼崎21世紀の森」へと変貌していきました。

尼崎工場夜景の切手を買い、久しぶりに尼崎南部の工業地帯の街歩きになりました。　Mutsu Nakanishi



添付参考資料　本文重複しているものも含めSlide Sizewでの補足収録

お城が復元されたポストコロナの新時代“鉄の街 尼崎”の新しい息吹　2023.11.26.

"尼崎にこんな美しい景色がある”「小林哲郎 尼崎の工場夜景」切手シートが発売された

【和鉄の道 2023】【鉄の話題 12月】

〈Photo 記録〉 ”鉄の街 尼崎”の新しい息吹　お城が復元されたポストコロナの時代　2023.11.26.

「小林哲郎　尼崎の工場夜景」が郵便切手に”鉄の街 尼崎”にこんな美しい景色がある

かつての工都尼崎の象徴「住友の三本煙突」がそびえていた南北に延びる五合橋界隈を歩く

高度成長時代の工都・鉄の街「尼崎」のシンボル　住友鋼管の３本煙突が消えてもうに２０年余り

現在の工都「尼崎」の南の工場地帯に　今こんなに美しい工場風景が広がっている。

また、今 尼崎の工場夜景の美しい景色が知られるようになり、この１１月２２日には

美しい尼崎工場夜景がデザインされた日本郵便切手シート「小林哲郎 尼崎の工場夜景」が発売された

尼崎南部の工業地帯の今昔　インターネット他　2023.11.26.

戦後日本の高度成長を支えた"鉄の街・工都 尼崎" 騒音と煤煙が立ち昇る姿は、尼崎の工業地帯の活気の象徴

でも現在の工場街は青空と静かさを取り戻し、ハイテク化された建物が整然と建ち並ぶ美しい姿に

◆戦後日本の高度成長を支えた尼崎南部の工業地帯　戦後復興から高度成長期(1995～1973)

鉄鋼・発電所等々大工場の煙突が建ち並び、噴煙を立ち昇らせる姿が壮観と映っていた

◆高度成長期を経て変貌が進む尼崎の工場地帯　2000年代

なぎさ回廊・運河が結ぶ現在の尼崎南部工場街へ 写真中央:発電所跡地に立つ巨大ハイテク工場　2009.2.4.

◆今 令和の新しい時代に変貌する"鉄の街 尼崎" の新しい工場街風景　五合橋界隈

令和の新しい時代に変貌する”鉄の街尼崎”の新しい姿 五合橋筋界隈　変貌する街と共に新しい工場群が織りなす新しい工場街景色

お城が復元されたポストコロナの新時代“鉄の街 尼崎”の新しい息吹　2023.11.26.

"尼崎にこんな美しい景色がある”「小林哲郎 尼崎の工場夜景」切手シートが発売された

高度成長の時代を支えた"鉄の街の南に聳えた尼崎"の象徴　「住友の三本煙突」1957年5月

「鉄の街」尼崎(1)　昭和３２年当時の住友金属鋼管製造所 の三本煙突

住友金属工業60年小史(昭和32年5月20日発行)

左下から右上へ 北の阪神尼崎駅から工場街を貫いて南の港へ 尼崎南東部の工業地帯を貫く幹線道路 五合橋線

朝夕 巨大煙突を見上げながら、工場へ 働く人たちの自転車・自動車の群れと街中から見晴らす「住友の3本煙突」

街中からも良く見え、「美」を越えた誰もがよく知る「活気あふれる尼崎」の象徴

庄下川の河口に張り巡らされた運河群　五合橋を渡ると工場 の真っ只中　両側に住友鋼管の工場群

左側 東向島西之町町　右側に三本煙突が見える 東向島東之町町　南へ進めば運河にかかる可動橋「大運橋」

懐かしいかつての尼崎の姿がありありと

五合橋筋南の可動橋 大運橋

五合橋筋の両側 旧住友鋼管本館前
(現日本製鉄)

阪神尼崎から南の工場地帯並びに港へ延びる五合橋筋運河にかかる五合橋から眺める旧住友鋼管(現日本製鉄関西製造所尼崎)

かつて、建物の後に巨大な煙突が３本立ち並び、この三本煙突は"工都・鉄の街 尼崎"成長の象徴と愛され、朝夕には五合橋を渡って工場や港へ向かう多くの人並や自動車がひしめき、活気ある工場の鋼管騒音と雑踏の音が成長する尼崎の象徴だった。

今も美手入れの行き届いたしいグリーンベルトの中をひっきりなしに自動車が南へ自動車が下ってゆきますが、静かなもの。

令和の新しい時代の中　変容する街と共に新しい工場群が織りなす新しい工場景色　変貌する"鉄の街尼崎"の新しい姿です。

阪神尼崎から南の工場街・港へ延びる幹線道路　五合橋筋界隈の秋景色　2023.11.26.午後

PICK UP 尼崎現代史　1995年

阪神工業地帯初の高炉の最後

昭和7年（1932）、尼崎製鋼所が設立され、尼崎築港埋立地に大工場を建設、昭和10年代前半には高い収益を上げ、尼崎臨海工業地帯を代表する鉄鋼メーカーへと成長しました。昭和16年（1941）には尼崎製鉄所が新設され、阪神工業地帯で初となる高炉（溶鉱炉）を建設しました。その後、尼崎製鋼と尼崎製鉄は合併・分離を繰り返しながら、昭和40年（1965）に神戸製鋼所尼崎製鉄所となりました。尼崎製鉄所には昭和32年（1957）建設の2号高炉もあり、2基の高炉は尼崎臨海工業地帯のシンボルでしたが、阪神・淡路大震災後の平成7年（1995）、両高炉は取り壊されることとなり、尼崎製鉄所跡地は兵庫県による「尼崎21世紀の森」へと変貌していきました。

尼崎工場夜景の切手を買い、久しぶりに尼崎南部の工業地帯の街歩きになりました。　Mutsu Nakanishi

高度成長の時代を支えた"鉄の街の南に聳えた尼崎"の象徴 「住友の三本煙突」1957年5月

「鉄の街」尼崎(I)　昭和３２年当時の住友金属鋼管製造所の三本煙突

住友金属工業60年小史(昭和32年5月20日発行)

左下から右上へ 北の阪神尼崎駅から工場街を貫いて南の港へ 尼崎南東部の工業地帯を貫く幹線道路 五合橋線
朝夕 巨大煙突を見上げながら、工場へ 働く人たちの自転車・自動車の群れと街中から見晴らす「住友の3本煙突」
街中からも良く見え、「美」を越えた誰もがよく知る「活気あふれる尼崎」の象徴
庄下川の河口に張り巡らされた運河群　五合橋を渡ると工場 の真っ只中　両側に住友鋼管の工場群
左側 東向島西之町町 右側に三本煙突が見える 東向島東之町町　南へ進めば運河にかかる可動橋「大運橋」
懐かしいかつての尼崎の姿がありありと

高度成長の時代を支えた"鉄の街の南に聳えた尼崎"の象徴 「住友の三本煙突」1957年5月

「鉄の街」尼崎(I)　昭和３２年当時の住友金属鋼管製造所の三本煙突

住友金属工業60年小史(昭和32年5月20日発行)

左下から右上へ 北の阪神尼崎駅から工場街を貫いて南の港へ 尼崎南東部の工業地帯を貫く幹線道路 五合橋線
朝夕 巨大煙突を見上げながら、工場へ 働く人たちの自転車・自動車の群れと街中から見晴らす「住友の3本煙突」
街中からも良く見え、「美」を越えた誰もがよく知る「活気あふれる尼崎」の象徴
庄下川の河口に張り巡らされた運河群　五合橋を渡ると工場 の真っ只中　両側に住友鋼管の工場群
左側 東向島西之町町 右側に三本煙突が見える 東向島東之町町　南へ進めば運河にかかる可動橋「大運橋」
懐かしいかつての尼崎の姿がありありと

五合橋筋南の可動橋 大運橋

五合橋筋の両側 旧住友鋼管本館前
(現日本製鉄)

阪神尼崎から南の工場地帯並びに港へ延びる五合橋筋運河にかかる五合橋から眺める旧住友鋼管(現日本製鉄関西製造所尼崎)
かつて、建物の傍に巨大な煙突が３本立ち並び、この三本煙突は"工都 ・鉄の街 尼崎"成長の象徴と愛され、朝夕には五合橋
を渡って工場や港へ向かう多くの人並や自動車がひしめき、活気ある工場の鋼管騒音と雑踏の音が成長する尼崎の象徴だった。
今も美手入れの行き届いたしいグリーンベルトの中をひっきりなしに自動車が南へ自動車が下ってゆきますが、静かなもの。
令和の新しい時代の中　変容する街と共に新しい工場群が織りなす新しい工場景色　変貌する"鉄の街尼崎"の新しい姿です。

尼崎南部の工業地帯の今昔　インターネット他　2023.11.26.

戦後日本の高度成長を支えた"鉄の街・工都 尼崎" 騒音と煤煙が立ち昇る姿は、尼崎の工業地帯の活気の象徴
でも現在の工場街は青空と静かさを取り戻し、ハイテク化された建物が整然と建ち並ぶ美しい姿に

◆戦後日本の高度成長を支えた尼崎南部の工業地帯　戦後復興から高度成長期(1995～1973)

鉄鋼・発電所等々大工場の煙突が建ち並び、噴煙を立ち昇らせる姿が壮観と映っていた

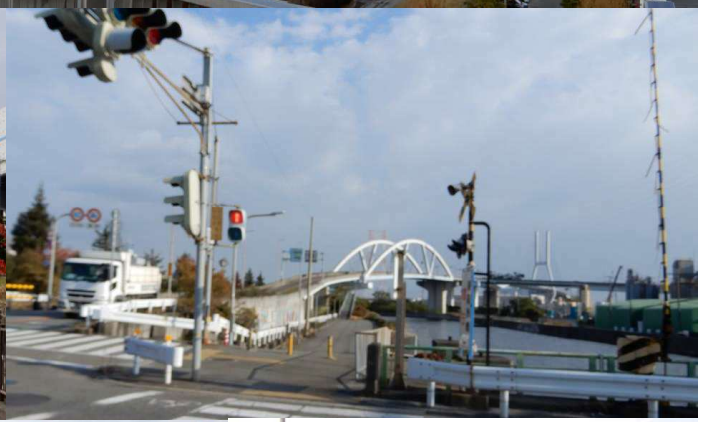
◆高度成長期を経て変貌が進む尼崎の工場地帯　2000年代

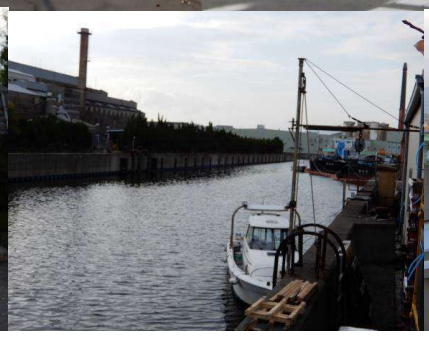
なぎさ回廊・運河が結ぶ現在の尼崎南部工場街へ 写真中央:発電所跡地に立つ巨大ハイテク工場　2009.2.4.

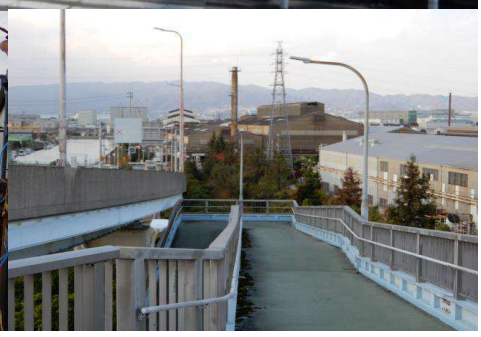
◆今 令和の新しい時代に変貌する"鉄の街 尼崎" の新しい工場街風景　五合橋界隈

令和の新しい時代に変貌する" 鉄の街尼崎" の新しい姿 五合橋筋界隈　変貌する街と共に新しい工場群が織りなす新しい工場街景色

令和の新しい時代に変貌する"鉄の街 尼崎" の新しい工場街風景　五合橋界隈







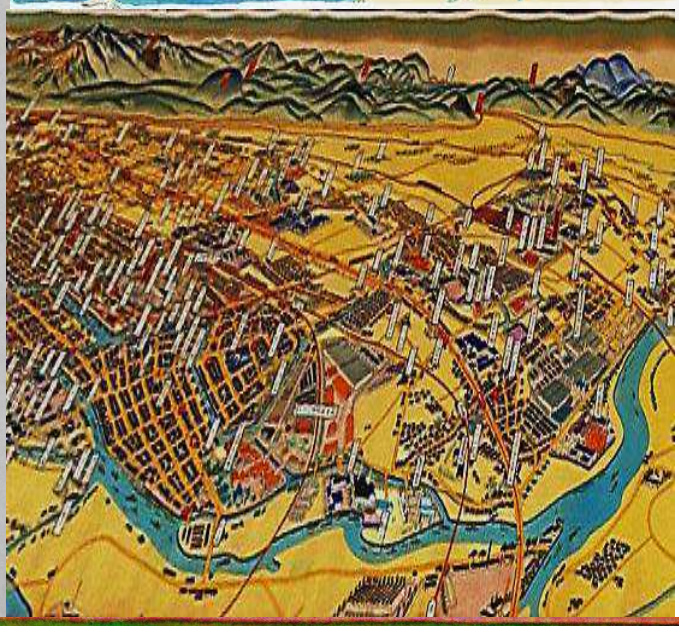
尼崎市立歴史博物館

PICK UP（ピックアップ）尼崎現代史　１９９５年

阪神工業地帯初の高炉の最後

昭和７年（１９３２）、尼崎製鋼所が設立され、尼崎築港埋立地に大工場を建設、昭和１０年代前半には高い収益を上げ、尼崎臨海工業地帯を代表する鉄鋼メーカーへと成長しました。昭和１６年（１９４１）には尼崎製鉄所が新設され、阪神工業地帯で初となる高炉（溶鉱炉）を建設しました。その後、尼崎製鋼と尼崎製鉄は合併・分離を繰り返しながら、昭和４０年（１９６５）に神戸製鋼所尼崎製鉄所となりました。尼崎製鉄所には昭和３２年（１９５７）建設の２号高炉もあり、２基の高炉は尼崎臨海工業地帯のシンボルでしたが、阪神・淡路大震災後の平成７年（１９９５）、両高炉は取り壊されることとなり、尼崎製鉄所跡地は兵庫県による「尼崎２１世紀の森」へと変貌していきました。

解体直前の高炉

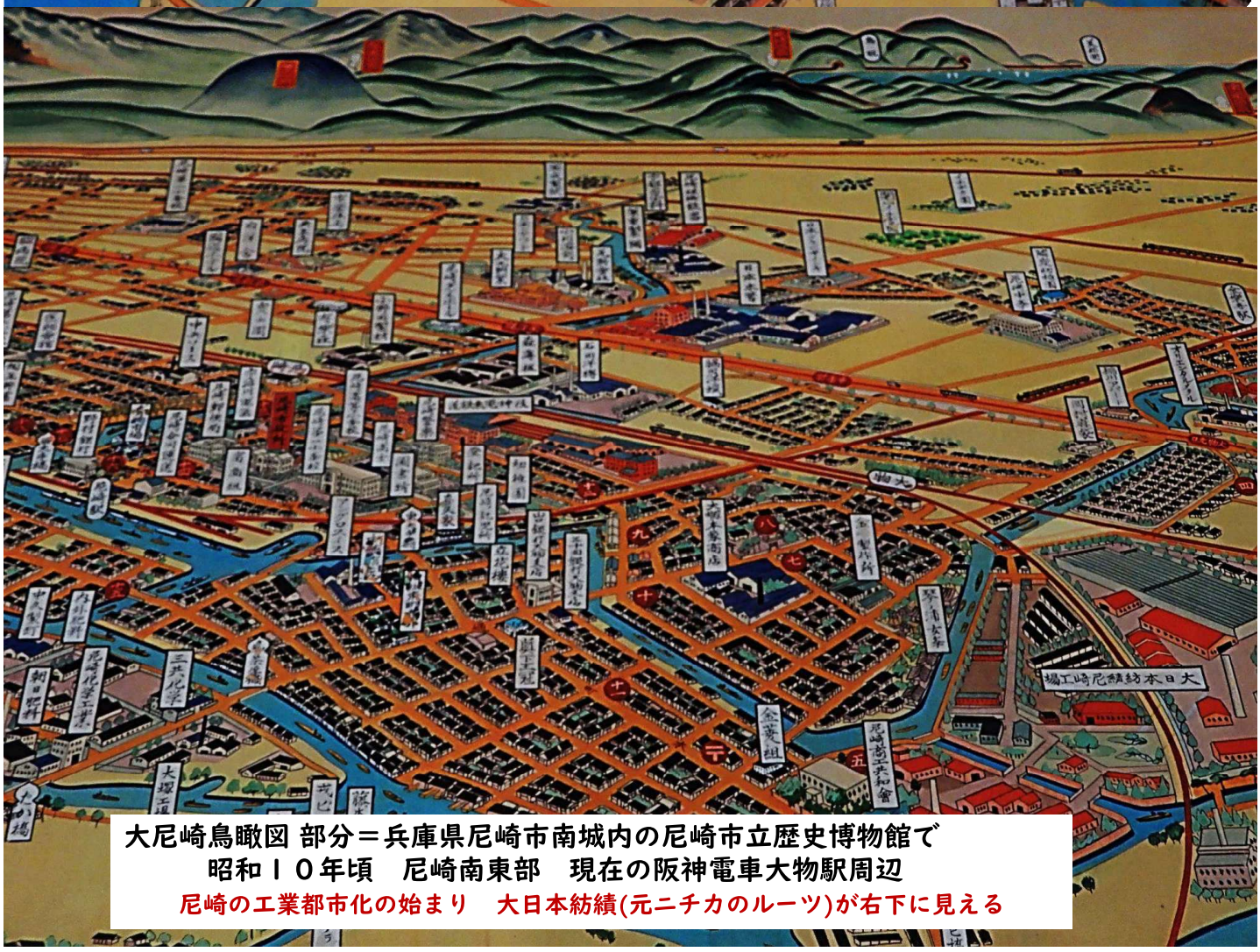


大尼崎鳥瞰図 部分＝兵庫県尼崎市南城内の尼崎市立歴史博物館で
昭和１０年頃　尼崎東南部　現在の阪神電車尼崎周辺

旧国鉄尼崎港・築地・城内を中心に南に工場が立ち並びはじめ
阪神工業地帯の中核としての工都尼崎・鉄の街尼崎が形成され始める

大尼崎鳥瞰図 部分＝兵庫県尼崎市南城内の尼崎市立歴史博物館で
昭和１０年頃　尼崎東南部　現在の阪神電車尼崎周辺

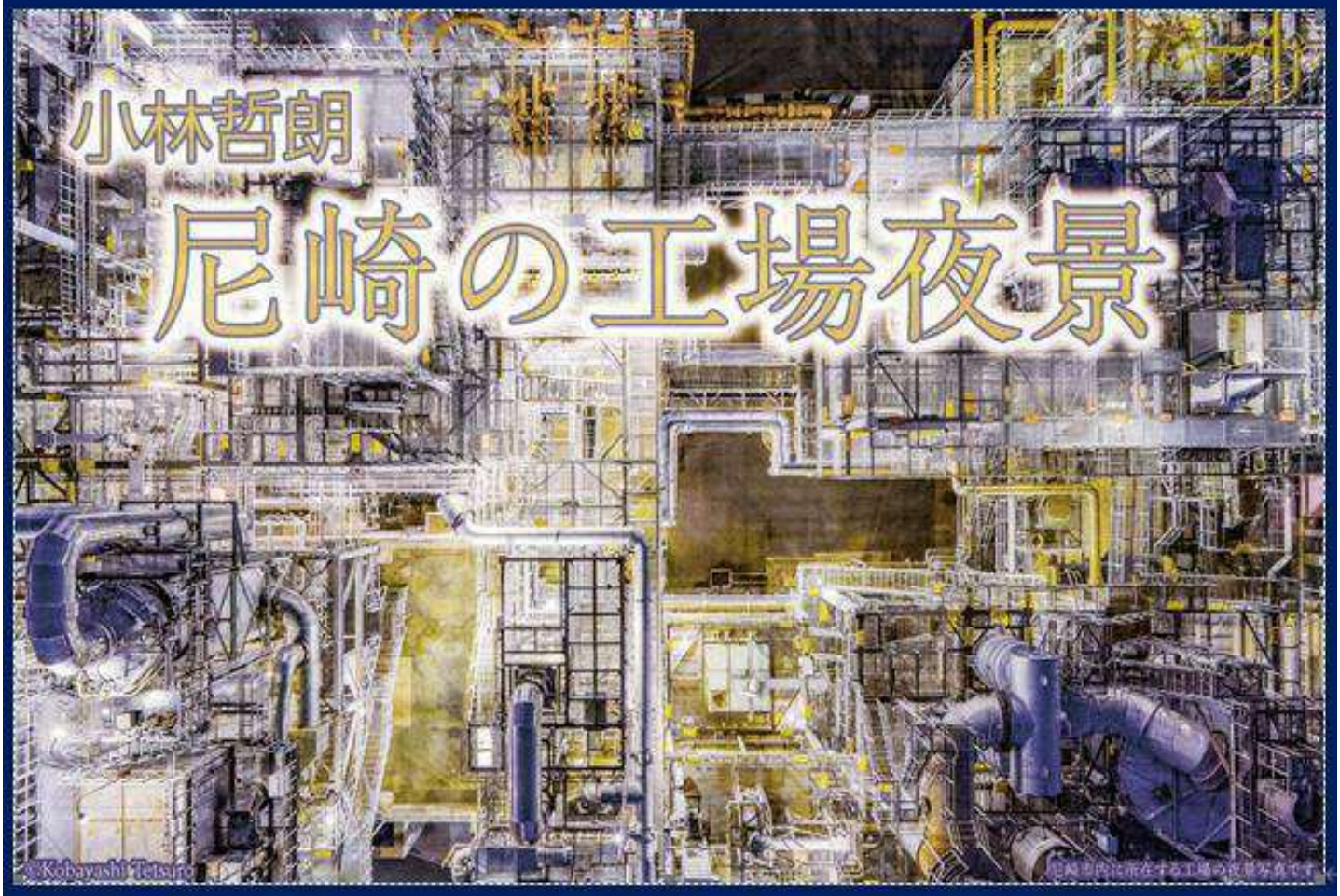
旧国鉄尼崎港・築地・城内を中心に南に工場が立ち並びはじめ
阪神工業地帯の中核としての工都尼崎・鉄の街尼崎が形成されてゆく
絵図中央に「五合橋」・旧住友金属の「住友伸銅鋼管」の名前が見える

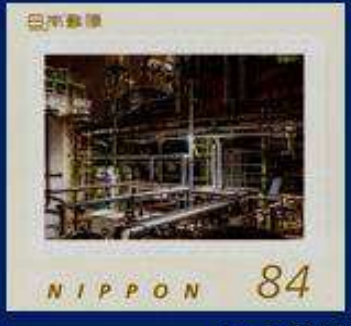


大尼崎鳥瞰図 部分＝兵庫県尼崎市南城内の尼崎市立歴史博物館で
昭和１０年頃　尼崎南東部　現在の阪神電車大物駅周辺

尼崎の工業都市化の始まり　大日本紡績(元ニチカのルーツ)が右下に見える

日本郵便 切手シート(copy)　小林哲朗「尼崎の工場夜景」2023.11.22.発売





日本郵便 切手シート(copy)　小林哲朗「尼崎の工場夜景」2023.11.22.発売

【参考】fromkobefkobe1713A.pdf

From Kobe 2017 思いつくまま　【From Kobe　弥生３月　】Fkobe1703.pdfより

2.《写真ファイル》尼崎港周辺の工場街の夕・夜景を見に行く　2017.2.19.

かつて阪神重工業を支えた「鉄の町　工都尼崎」その匂いが残る工場街
その歴史　そして産業遺産をもっと大事にしてほしいなぁと。　by Mutsu Nakanishi

1. 元気をくれた故郷尼崎工場街の四角い大煙突
2. 尼崎港周辺工場街・尼崎港閘門・尼ロックの夕景
3. 尼崎の工場夜景　大浜 日油(旧日本油脂)工場の夕・夜景

最近高校生の孫娘が「尼崎の工場夜景」の写真を撮りたいので連れてゆけという。
私にとって、尼崎の工場地帯はお手の物。
でも尼崎の工場夜景というと気にして眺めたこともなし。
ちょうどいい機会と車が少ない日曜日の夕方、家内の車を足にして、デジカメ片手に孫娘をつれて尼崎港界隈の工場街や運河沿いを歩きました。
私も興味津々で、今の尼崎の工場街の写真を撮りましたので、いくつかご紹介。

尼崎で育ち、勤めも尼崎だった私。
かつては工都「尼崎」・「鉄の街」そして「阪神工業地帯の中核」などと言われ、その一翼を担っていると思っていた時代もありましたが、最近尼崎に行っても、そんな話を耳にすることも　ほとんどなくなりました。
新しい街づくりが盛んに叫ばれているなかで、市役所の職員までもが、尼崎戦後の発展を封印し、工都と公害は禁句のように言い、寂しく感じたことがある。
しかし、最近、工場の夜景に興味を持つ若者が増え、尼崎の工場夜景も、もてはやされるようになってきて、ちょっと風向きが変わってきたのかなぁ・・と思っています。
なお、尼崎沿岸の工場地帯や尼崎ロックなどの地理やの様子については下記に示しました home page 記事で 2009 年にご紹介していますのでそちらをご覧ください。

参考　2009 年風来坊・Country walk　by Mutsu Nakanishi
《2月 陽だまりハイク》　工都 尼崎 を支えた「尼崎港閘門（尼ロック）」Walk. 2009.2.4.
http://www.infokkkna.com/ironroad/2009htm/iron5/0903amrk00.htm
阪神重工業を支えた「鉄の町　工業都市尼崎」その歴史そして産業遺産をもっと大事にしてほしいなぁと。

1.　元気をくれた故郷尼崎工場街の四角い大煙突

尼崎の工場地帯にある四角の大煙突　見上げる堂々とした姿に元気をもらう

かつて工都「尼崎」の象徴として、「南の空にクモクと噴煙をあげる大煙突が幾本も林立する姿」
尼崎の南の空にそんな煙突群がみられる姿がなくなって、寂しく思っていましたが、
工場が立ち並ぶ五合橋筋の港の運河にかかる東高洲橋の際に、堂々と立つ四角の大煙突。
そのたくましさは　あたらしいクリーン尼崎の象徴か・・・
元気を掻き立てられ、煙突群がなくなって　寂しいとは　もう言うまいと。

2. 尼崎港周辺工場街・尼崎港閘門・尼ロックの夕景

3. 尼崎の工場夜景　大浜町 日油(旧日本油脂)工場の夕・夜景